

眼内レンズ事業

興和株式会社

便利な眼内レンズが登場するまで

かつて、白内障^(注)手術の水晶体摘出後は、分厚い眼鏡での視力矯正が必要で、患者は大きな不便を強いられた日常生活を送っていた。1949年に英国人医師により、摘出された水晶体の代わりに人工レンズ (IntraOcular Lens=IOL) を眼内に挿入する方法が考案された後、この分野で多くの専門家による熱心な研究が続けられた。1980年代、特に1985年以降にはIOLは世界的に普及したが、当時のレンズ素材は硬い樹脂製で、挿入の際の切開幅も大きく、数日の入院を伴うものであった。その後、素材の改良が進みシリコン系、アクリル系などの柔らかいレンズが開発され、近年ではレンズを折り畳み、数mmの小さな切開幅で挿入・装着できるフォールドダブルレンズが登場。これにより手術に要する時間も大幅に短縮され患者への負担も軽減した。最近では日帰り手術が一般的で、患者の手術後の生活改善が向上している。日本国内では1992年に保険適用になったこともあり、今では年間約120万眼のIOL挿入手術が行われている。

当社の眼内レンズ事業への進出

1960年代に眼底カメラを開発し、眼科医療機器分野でパイオニアの企業であった当社が、眼内レンズ事業に目を向けたのは既に20年も前のことであった。将来の高齢化社会の到来を見据え、より安全性が高く高品質のIOLを開発、提供することは、白内障に悩む人々のQOV (Quality of Vision) の回復と、その結果としてQOL (Quality of Life)

の向上という形で社会に大きく貢献できると、この分野を注視していた。2006年に至り、IOLの事業展開を進めていた大手コンタクトレンズメーカーのメニコンからその事業を譲り受け、IOL事業に参入し、当社の医療用医薬品の事業インフラを存分に活用したことで大きく花が開き、多くの白内障患者の皆さまのQOLの向上に貢献していると自負している。

眼内レンズ「アバンシィ」の特徴

当社の製品「アバンシィ」は、大きく次の特徴を持つ。①手術後の自然な見え方やまぶしさを軽減するために薄い黄色に着色されており、レンズの度数や厚みにかかわらず安定した同じ色の濃さになっている。②独自のキャストモールド製法 (鋳型法) や製造工程での厳しい品質管理によって均一性の高い材料重合を実現しているため、より長期的に安定したレンズの透明性を維持している。③レンズ表面が滑らかで、シャープなエッジの仕上がりにより眼内挿入後の後発白内障などの副作用抑制に寄与している。このアバンシィをより簡便に、そしてより清潔に使用いただけるレンズ・挿入器一体型の「アバンシィ プリセット」とともに、大学病院などで大きな評価を頂いている。

今後の展望

人口の高齢化と長寿命化は世界レベルの課題であり、今後海外への事業展開にも注力している。いずれの国や地域においても、IOLは医薬品と同様に品質と安全確保のために厳しい規制を受け、販売に向けてのハードルは大変高いものの、医療先進国日本で認められた良質、かつ安全な製品をもって世界市場へ参入し、より広い社会貢献を果たしていきたい。また、乱視矯正などの付加的な機能的特徴を兼ね備えたものを商品ラインアップに加え、より多くの日本発信の製品を医療市場に届けていきたいと思っている。

(注) 加齢によるケースが多く、水晶体が濁り、物がかすんだりぼやけて見える症状



販売名 アバンシィ アバンシィプリセット

JF TC